

## 前立腺癌（臨床癌、ラテント癌）の発症に関わる遺伝子多型の探求

鈴木基文、黒崎剛之、北村唯一

東京大学医学部附属病院・泌尿器科

【目的・方法】本研究では前立腺癌発症に関わるとされる既知の遺伝子多型について、臨床癌、ラテント癌、コントロール群の3群間における比較を行い、前立腺癌の発症リスクを評価する事を目的とした。対象は、弧発性前立腺癌症例 391 例、ラテント前立腺癌症例 112 例、コントロール群 323 例とした。遺伝子多型のタイピングには TaqMan 法を用い、ロジスティック解析による多変量解析を行った。

【概要】染色体 8q24 上の遺伝子多型が前立腺癌の発症に強く関連することが Yeager ら (Nat. Genet. 2007; 39: 645-649) によって明らかとなったことを受けて、我々は native Japanese population を対象とした replication study を計画した。具体的には rs1447295 と rs6983267 の2箇所の遺伝子多型についてタイピングを行い、前立腺癌発症リスク（年齢調整オッズ比）を求めた。

【成果の要約】rs1447295 多型では、CA 遺伝子型で弧発性前立腺癌発症リスクが 1.54 倍 (95% CI, 1.08 - 2.21)、rs6983267 多型では GG 遺伝子型で弧発性前立腺癌発症リスクが 2.21 倍 (95% CI, 1.24 - 4.03) と共に有意差を認めた。さらに、CC 遺伝子型(rs1447295)と TT 遺伝子型(rs6983267)を併せ持つ個体では弧発性前立腺癌発症リスクが 2.74 倍 (95% CI, 1.13 - 7.17) となった。ラテント前立腺癌症例の genotype distribution はコントロール群とほぼ同じで、有意差を認めなかった。以上より、染色体 8q24 上の遺伝子多型は native Japanese population においても前立腺癌の発症に有意に関わっていることが明らかとなった。現在、テストステロンの代謝に関わるとされる CYP2B6 遺伝子多型と前立腺癌発症リスクについて、解析を進めているところである。